

ミナミ千日前に気品たかく佇む
‘べっぴん’な店構え

純喫茶アメリカン



シアトル系カフェ全盛の現在、昭和時代の古き良き喫茶店が街から姿を消しつつある。喫茶店は、高度経済成長期の都市文化を語る上で欠かせない存在だ。昭和の雑踏が今も息づく千日前商店街に建つ純喫茶アメリカンは、戦後すぐの1946年に開店、木造だった店舗を1963年にビルへと建て替えた。オーナーは開店以来、売り上げの大部分を店の整備につぎ込んできたといい、フェスティバルホールの外壁を思わせる壁面の大きな彫刻レリーフや、優雅な曲線を描いて上る2階への階段など、どこを見ても昭和のモダンなデザインで、見る者を全く飽きさせない。(高岡伸一)

所在地：大阪市中央区道頓堀 1-7-4
建設年：1963年
構造・規模：RC造5階（一部6階）
設計：富士工務店